

## JGS NL 008 号に寄せて

宝石鑑別の結果が今と昔ではなぜ違うのか、という疑問が有る。

もちろん昔は、ダイヤモンドの処理石を鑑別出来なかったが、今は技術も機材も発達したおかげで、高次元レベルでの看破出来るようになった。

しかし主観が入る鑑別はどうでだろうか。

私が気になるのが、アレキサンドライトだ。

昔は完全に大丈夫だった石が最近の鑑別書を作成するとクリソベリルと記される事が多い。色変わりが、有ればアレキサンドライトで良いのではと思う。

パパラチアサファイアの基準の曖昧なところも問題であると思う。

基準が変わったのであれば、その都度きちんとした情報を伝えてほしいものだ。

経年劣化が必ずある真珠の花珠鑑別も問題が有るし、そのような品物に鑑別書を付けて販売すること自体に疑問が残る。

そもそも宝石の鑑別、鑑定書を発行している会社は国家資格ではなく、公共機関でもない民間団体である。そのため会社によって鑑別料金も違う、結果も違う、納期も違う、信用も違う。

昔は全宝協より甘い鑑定書を出していた会社もあったが、今は業界大手になって、全宝協は倒産した。いったい鑑別業界はどうなっているのだろうか。

海外の機関も疑問点が多い。

産地鑑別は必要でしょうか。今の技術レベルでは、まだまだ正確な産地鑑別は出来ないと思われる。無理に産地鑑別を付けて消費者に売る必要性も無いと思う。

そもそも宝石は天然か合成か、ヒートかノンヒートか、くらい解れば良いのではと思う。

一番大切な事は、その宝石が美しいか美しくないかだと思う。

もし自分で判断出来ないのなら、純粋な眼を持った子供に判断させれば良いのではないだろうか。きっと美しい色を判別してくれると思う。

2016年8月

一般社団法人 日本宝石協会

副理事長 渡辺幸春